


教育学部シラバスの実態 ～ 旧約聖書かソクラテスか～

君島 浩、筑波大学

2009.12.12 次世代大学教育研究会 1



はじめに

- 教育学部のシラバスや教科書を見ずに教育論争
- 教師育成は歴史・実践偏重で、理論や技術が弱い
- 教育学界は自閉的で、風土はソクラテス時代
- 詰め込みかゆとりかの往復では、進歩しない
- 指導か学習かの選択ではなく、指導が主題
- ニーズに基づき計画する前に、シラバスを直視
- 解決策は、法学部や医学部のように変えること

2009.12.12 次世代大学教育研究会 2



教育デザイン I D は存在したか

1990 清水康敬先生の米国の I D 調査報告を読む

1993 私が「日本における I D の動向」を発表

- 米国の産官の I D 導入の先進性
 - 米国には I D 系学科を持つ教育学部が多い
 - 坂元昂先生発言「 I D は昔からある」
-
- なぜ私が「日本には I D はない」と思ったか
 - なぜ清水先生や私が外国を調査したか

2009.12.12

次世代大学教育研究会

3



教職免許のための教科書

「教育の原理」第三版、
沼野一男他著、学文社

- 教育とは何か
- 文化と教育のかかわり
- 学校式教育と人間教育
- 何を教えるか
- いかに教えるか
- 職業としての教師

「教職入門」、柴田義未
他編著、学文社

- 今日の教育課題と教師
の力量形成
- 授業を創る
- 生活指導の創造
- 学校づくりの実践
- 教師の成長と力量

他学部の基礎論と違う。大半が物語。

2009.12.12

次世代大学教育研究会

4

物語的 I D に対する基礎論型 I D の登場

ページ	佐藤学、「教育方法学」	ガニエほか、「I D の原理」
1	教育学との違い	教育の定義
2	教授学との違い	教授設計の基本的な想定 1
3	授業研究の登場	教授設計の基本的な想定 2 ~ 5
4	包括的かつ学際的なジャンル	学習の定義 ガニエ (1985)
5	実践的研究としては	学習のプロセス、ガニエ (1985)
6	同上	学習原理 (近接性、反復、強化)
7	古代ギリシャの哲学者たち	学習原理 (意味の交渉、状況的認知)
8	中世の教会と大学の教育	学習原理 (活動理論)
9	宗教革命と印刷術の発明	学習プロセスの情報処理モデル
10	大教授学 コメニウス	短期記憶
11	印刷術	制御プロセスの 9 ステップ
12	合自然の教育学 ベスタロッチ	教授事象 9 の事象
13	直観から概念へ	学習の種類 五つの種類
14	国民国家の教育学 ヘルバルト	知的技能 数学の例

2009.12.12 次世代大学教育研究会 5

教育原理の書き出し

今日私たちは、「教育」ということばを、いわば日常語として使っている。一般に日常語のもつあいまいさ・多義性が「教育」ということばにもつきまとっている。「教育」ということばを聞いて、頭に浮かぶイメージを出し合ってみるなら、このことは容易に理解されるであろう。


たとえば、かつて、「学校は死んだ」とか「教育は死んだ」とかいう言い方が、さかんに用いられたことがある。いずれも「今の学校に教育がなくなっている」という主張である。

「教育の原理」第三版、沼野一男他著、学文社

インストラクションの目的は、人々の学習をたすけることにある。学習はインストラクションなしで成立するのだろうか？ もちろん成立する。私たちは、自分たちを取り巻く環境とそこで生起する事例に常に出会い、そしてそれを解釈している。学習とはそのような自然のプロセスであり、学習することによって私たちは知っていること、できること、行動の方法などを変化させている。一方で、教育システムの目的の1つに、意図的な学習を支援することがある。

「インストラショナルデザインの原理」ガニエ他著、鈴木克明他訳。


2009.12.12 次世代大学教育研究会 6



教育基本法:教育の目的と手段は明確

<p>(目的)第1条 人格完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 第1条は法の目的と範囲。履行条文ではない ■ 人格 = 知識 + 技能 + 態度 ■ 教育の受益者の話題 ■ 個人の成績インスタンス ■ 目的は完全達成が困難 ■ 人間性だと誤解される 	<p>(機会)第4条 能力ごと</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 履行条項：下位法規必要。教育機関の提供が必要 ■ 能力 = 学科や職業の定義 ■ 教育の提供者側の話題 ■ 集団・クラスに相当 ■ 個人の面倒見とは違う ■ 個人成績だと誤解される
--	--

2009.12.12
次世代大学教育研究会
7



古代ギリシャの学術の4本柱

- 旧約聖書など 過去の預言を音声・文字で伝承

■ ソクラテス	街頭対話	実践物語
■ プラトン	対話編。学内対話	歴史物語
■ アリストテレス	科目分解と教材	理論
■ ヒポクラテス	医術	技術


- 教育再生論争は、旧約聖書とソクラテスの状態


2009.12.12
次世代大学教育研究会
8

愛知教育大のシラバス： 一般・基礎科目

	歴史	理論	技術	実践
哲学入門				
美術入門				
憲法				
科学と人間				
日本文化入門				
教師論				
教育原論				
教育哲学				
教育方法				
発達学				
学習心理				
指導心理				
青年心理				
臨床心理				
図書館学				

- 成人教師論は歴史


- 生徒論は理論




2009.12.12
次世代大学教育研究会
9

教育大のシラバス： 教科教育法科目など

	歴史	理論	技術	実践
人文科学入門				
心と体入門				
自然科学入門				
社会科学入門				
国語教育入門				
社会教育入門				
音楽教育入門				
体育科教育入門				
家庭科教育入門				
理科教育入門				
美術教育入門				
算数教育入門				
職業指導 2年				
進路指導				
職業指導 4年				

- 主題の理論と技術
- 国語は理論・技術が不足
- 社会・芸術は欲張り
- 主題学部の風土に似る


2009.12.12
次世代大学教育研究会
10



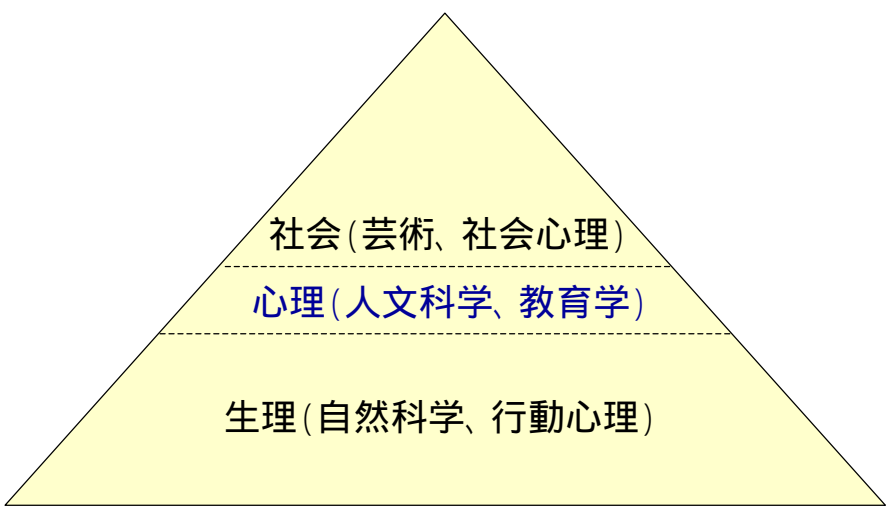
認知的方略としての問題

- 言語と教育とが、認知には活躍するが
- 最も遅れているのが、人文学と教育学である
- シラバスの文章は人文学部より他学部が上手
- シラバスの技術は教育学部より他学部が上手
- 教育学は高校までに前提科目のない唯一の分野
- 「言語の教育」は、最弱の組合せ

2009.12.12 次世代大学教育研究会 11



クイルの生理・心理・社会モデルの中の弱者



社会 (芸術、社会心理)
心理 (人文科学、教育学)
生理 (自然科学、行動心理)

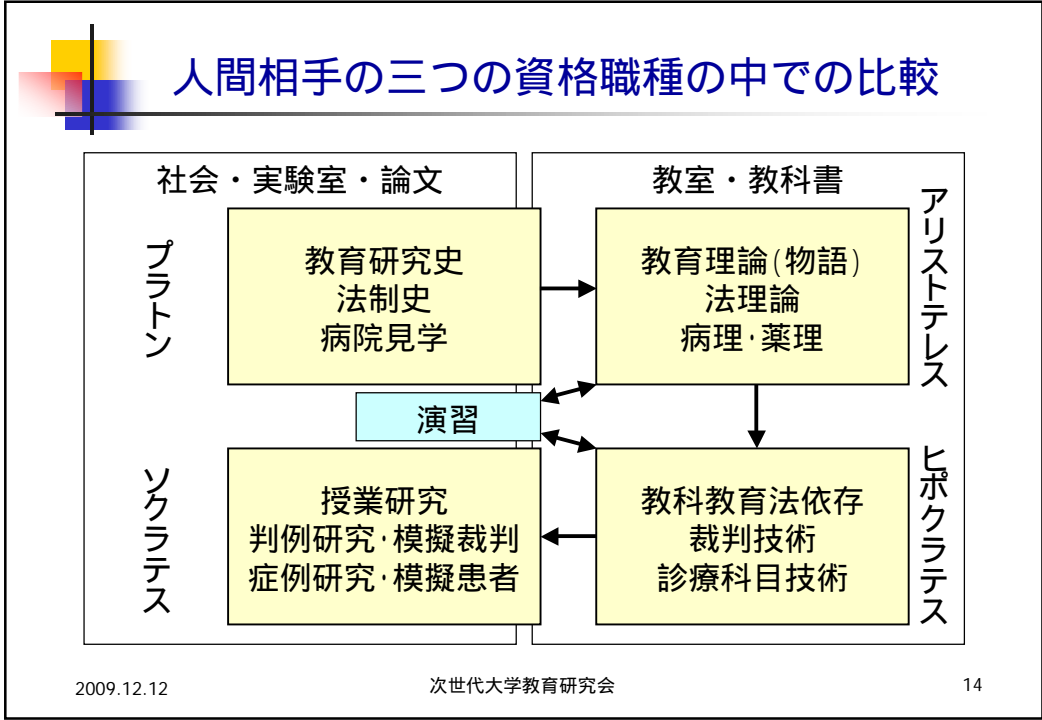
2009.12.12 次世代大学教育研究会 12

教科教育法科目の功罪

- 教師が理論と技術を学べる貴重な科目
- 標準指導要領・教科書とともに学校を救っている
- 他の科目の欠陥の保護者。改定させられる被害者

- 指導要領設計・教科書開発の一般論がない
- 理論・技術の陳腐さ。教科科目間の重複
- 授業時間の限界。主題学 + 理論 + 技術は無理
- 教科間の風土の違いの容認 生徒は混乱
- 教科書のない年齢層の混乱 幼稚園・保育園

2009.12.12
次世代大学教育研究会
13





米国の教育学部も遅れている

オクラホマ州の学者協会の教員養成報告書

- 内容が薄い
 - 実践に偏重し、実践能力を付与しない
 - 理論が乏しく、就職後の熟達にも妨げになっている
- 実践体験などの「師範学校」科目が長時間
 - 深化用の上級科目が時間不足
- 歴史，思想，社会，実験，観察，手伝いが多い
 - シラバスが法学部・医学部に比べて異常
- 学位インフレである
 - 内容が薄く、採点が甘い。

2009.12.12

次世代大学教育研究会

15



オクラホマ州


- 位置： 米国の中心カンサスとテキサスの間
- 面積： 181,035km²（日本の本州 227,962 km²）
- 人口： 約354万人（静岡県 > OK州 > 茨城県）
- 州都： オクラホマシティ （約54万人）

- どんな田舎にも必要な職業は
 - 農業、政治三権、教師、医師、土木建築
 - 教育学だけローカル。他の学術はグローバル
- 教師実践力を上げるためには実践科目を減らせ

2009.12.12

次世代大学教育研究会


16



ウィリアム・バグレー(戦前の心理学者)

- 教師経験や教育学部創立などで苦労した人
「もし私が重病になって、ありえないことだがヒポクラテスか、ジョンズホプキンス大学卒の新米医者かを選べると仮定したら、もちろん(should)新米医者を選ぶべきでしょう。
もし私が高校から教員の採用を頼まれて、ソクラテスか、最新の指導技術のすべてを教える教員カレッジの「生産物」かを選べると仮定したら、私だったら(will、内情が分かるので)ソクラテスを採用する機会に飛びつくでしょう。」

2009.12.12 次世代大学教育研究会 17



日本の事情:旧帝国大学の場合

- 帝国大学の教育学部は教育学者育成
- 師範学校は教師育成。学生は現在の高校生の年齢

- 敗戦・亡国
- 師範学校を教育単科大学へ改組(東北大は後で)
- 教職学と教育研究の遊離
- リベラルアーツカレッジの科目群で学士相当に
- 米国師範学の伝染
- 大都市以外は県に閉じた進学・就職キャリア

2009.12.12 次世代大学教育研究会 18



教育社会学の功罪

- 教育社会学者は学際的・国際的な客観性を保有
- 改革の火付け役もいる
- 中核分野の学者が無関心で制度改革に止まる
- 内容が変わらないので形骸化
- 改革の火消し役もいる。マッチ・ポンプ

- 学際的だが自分の学部内は直せない

2009.12.12

次世代大学教育研究会

19




心理学の功罪

- 心理学者は科学的だが学習学者
- 教育学の古さを外部で補修。素人には分からない
- 教育学者は研究主題に心理学寄りを選びやすい
「教えるから、学ぶへ」などと
- 自閉的な用途に悪用される
血液型別性格論、自分探し、マルチ教育商法
コーチング、キャリアプラン、ワークショップ
自閉的な人が誘い込まれてインストラクタに

2009.12.12

次世代大学教育研究会


20



学習理論と指導理論

<h3>学習の情報処理モデル</h3> <ol style="list-style-type: none">1. 五感への刺激の受容2. 情報の登録3. 選択的知覚（状況中のキュー）4. 短期記憶の維持練習5. 意味的符号化6. 長期記憶の検索と短期記憶への回収7. 効果器への反応生成8. 学習者環境での行動9. 方略による学習過程制御	<h3>ガニエの指導の9事象</h3> <ol style="list-style-type: none">1. 注意を引く。2. 目標を知らせる。3. 事前の学習の思い出しを促す。4. 内容を展示する。5. 学習の進め方を知らせる。6. 実行を誘う。7. 結果通知を提供する。8. 査定を遂行する。次の項目の6へ。9. 維持と移転を強化する。
---	--

2009.12.12 次世代大学教育研究会 21



日本教育大学協会の提案、2005

- 体験・授業研究コア科目（ソクラテス型）
- 大筋では教育学部自身はゆとり教育へ振れた
- シラバスや教職必須科目教科書に反省なし

ファヨールの経営論

「経営組織というものは計画する対象というより、基本的な定義である」

- 気づき、振り返り、研究、計画は本質ではない
- 「構造体」としてのカリキュラムに本質がある

2009.12.12 次世代大学教育研究会 22

PISAショックの読解力の改善施策

社会・実験室・論文

入門案内
歴史物語

読本へ

作文へ

セミナー
事例研究

プラトン ▲
……
ソクラテス

- 昔は読本や作文が多かった
- 読解技術や理論が台頭
- 今後は作文時間を強化
- ゆとりへ振れた

2009.12.12

次世代大学教育研究会

23

読解教育改善の論文

トピックが段落
や章をまたぐ?

トピックセンテンスはどれ?

トピックセンテンスはどれ?

トピックセンテンスはどれ?

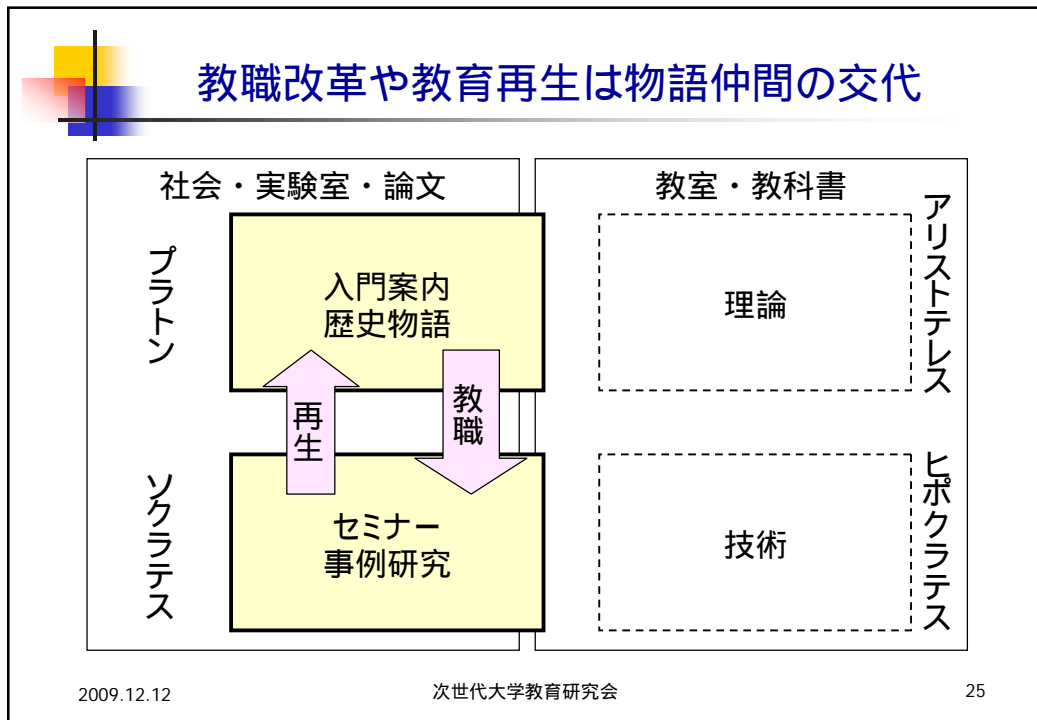
3 「読むこと」の内包の変化・拡充

PISAの「読解力」は「言葉や情報などを扱うために読む力」を意味する概念的


2009.12.12

次世代大学教育研究会

24



- ### ゆとり教育批判派の多様性
- 歴史物語教育学者
 - 理論・技術の教育学者（時間の奪い相手として）
 - 教育社会学者
 - 政治屋（右と左）
 - 企業人の要求（教育学は暗箱）
 - 親の要求（授業料支払者）
- 2009.12.12
- 次世代大学教育研究会
- 26



文学や教育は自閉的な世界

- 几帳面で一方的に話す学者が多い
- アスペルガー症の教育学者への質問の体験
- 質問と称して延々と自説を述べる文学者の体験
- 3時間無視された教育学宴会の体験
- 医学者の会話上手は診察教育のせいではない
- 几帳面でない人は成績なし講座の講師に

- 教員育成 F D に文学者や教育学者は無関心
- F D 推進を担当すると、気づき、振り返り

2009.12.12

次世代大学教育研究会

27



自閉へ理解を



2009.12.12

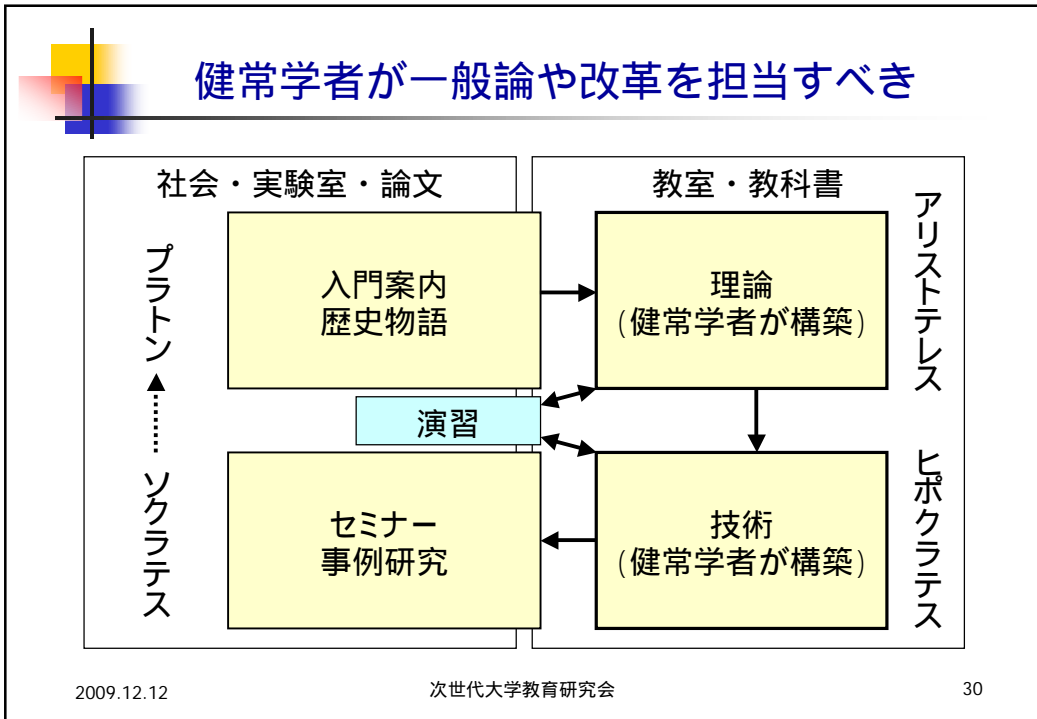
次世代大学教育研究会

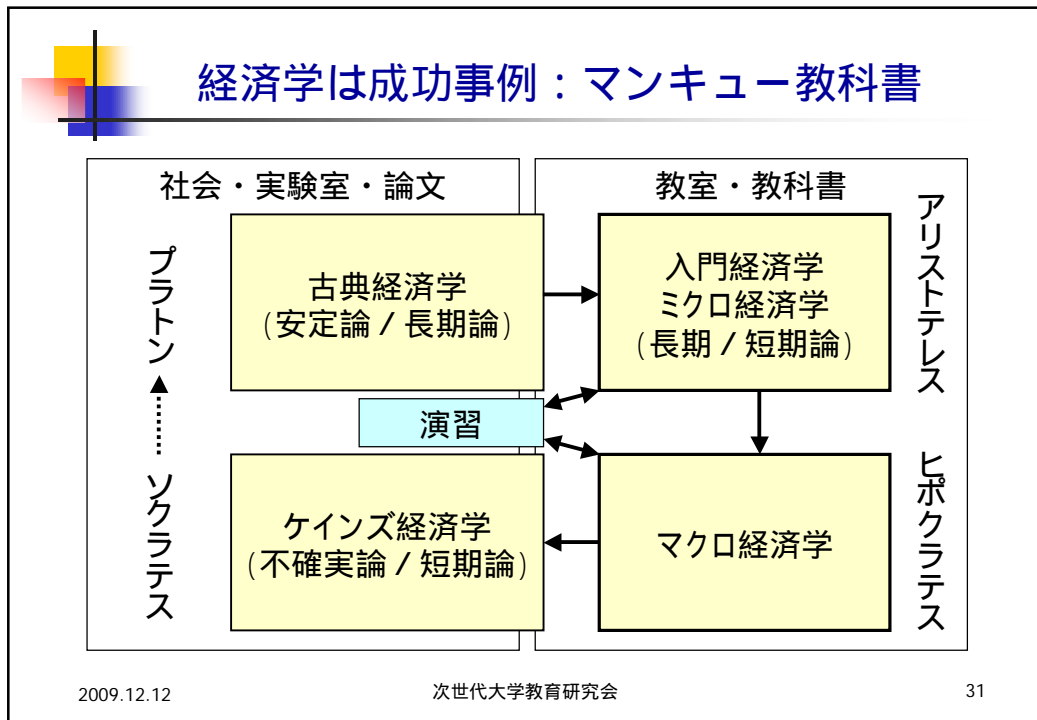
28

自閉学者は嫌だが理解してつきあおう

- 嫌うだけでは対立ばかり
- 社会性ではなく関知能力として理解する
- 対人でなくて対物でも同じ
- 学者になった人は立派だと思え
- 取組以外の新たな状況には困惑

2009.12.12
次世代大学教育研究会
29





- ### 強化しても所要時間は増やさずに済む
- 現実・演習 デジタル情報量として数万倍以上
 - 物語 情報量や忠実度は現実と理論との中間事例であることによる網羅性の欠如
 - 理論・技術 網羅性や教育効率は絶大
-
- 歴史や実践体験は今後も必要
 - バランスを変えるだけ。全体時間は増えない
 - 教科教育法科目間の理論・技術の重複が減る
- 2009.12.12 次世代大学教育研究会 32



参考文献

- (1)Herring, et al., 「At the Core of the Problem – Reforming Teacher Preparation in Oklahoma」, Oklahoma Association of Scholars, 2001..
- (2)愛知教育大学シラバス, <http://syllabus.aichi-edu.ac.jp/>.
- (3)「海上自衛隊の教育訓練の実施に関する達」, www.clearing.mod.go.jp/kunrei_web/.
- (4)「自省する『戦後教育学』」, 朝日新聞朝刊, 2007.5.12.
- (5)「平成18年度徳島大学教育カンファレンス 発表抄録集」, 徳島大学大学教育委員会, 2007.
- (6)大森不二雄, 「雇用・教育一体改革 今こそ」, 日経新聞朝刊, 2009.10.23.
- (7)R.ガニエ他著, 鈴木克明・岩崎信監訳, 「インストラクショナルデザインの原理」, 北大路書房, 2007.
- (8)君島浩, 「慶応SFCのテクニカルライティング講座(2)」, 情報処理学会研究報告, 2001-CE-61, 2001.
- (9)柴田義末他編著, 「教職入門」, 学文社, 2003.
- (10)沼野一男他, 「教育の原理」第三版, 学文社, 2002.
- (11)広田照幸, 「教育学の混迷」, 思想, 2007年第3号.
- (12)宮下英明, オンラインブック集 <http://m.iwa.hokkyodai.ac.jp/book/index.j.phtml>

2009.12.12

次世代大学教育研究会

33



教育学部のシラバスの実態

～ 旧約聖書かソクラテスか～

君島 浩, 筑波大学

2009.12.12

次世代大学教育研究会

34